

果樹



11月・12月の柑橘園管理



**果樹**  
白石 一斗  
下島営農指導センター  
080-1729-1633

1. 病害虫防除

	対象病害虫	防除時期	農薬名	希釈倍数	使用	収穫前使用可能日数
温州	貯蔵病害	収穫前	ベフラン液剤 混用	2,000倍	2回以内	前日まで
			ベンレート水和剤	4,000倍	2回以内	前日まで
	越冬害虫	12/下～1月/中	ハーベストオイル	60倍	—	—
中晩柑	貯蔵病害	収穫前	ベフラン液剤 混用	2,000倍	2回以内	前日まで
			ベンレート水和剤	4,000倍	2回以内	前日まで
			ベフトップジンフロアブル	1,500倍	2回以内	前日まで

2. 施肥、葉面散布

○通常タイプ

対象品種	肥料名	施肥時期	10a当たり
清見・甘夏・河内晩柑			
パール柑・ポンカン	ニュー熊本果樹2号	11月上旬	3袋
デコボン	ニュー熊本果樹3号	11月上旬	3袋
温州ミカン	ハイヤ1号	収穫後	4袋

○収穫が終わった品種は樹勢回復対策を行きましょう。

資材名	使用倍数	備考
尿素 又は アミノジューシーN14 又は 神協スピリッツ	500倍	収穫後3回以上集中散布

3. 河内晩柑落果対策(11月)

2回目(1回目から20日後):マデックEW 2,000倍 + 尿素500倍

4. デコボンの水腐れ軽減対策

散布適期を逃さない様、貯蔵病害の薬剤散布前に単剤で行いましょう。

○ジベレリン液剤40mlの場合(0.5～1ppm)

対象品種	実施時期	薬剤名	使用濃度	1ビン当たりの水量	使用液量(10a当り)	収穫前日数
デコボン	着色終期	ジベレリン液剤	0.5ppm	400ℓ	50～500ℓ	7日前まで
			1ppm	200ℓ		

5. カンキツのヘタ落ち防止対策

収穫20日～10日前までに散布・・・マデックEW 2,000倍(使用回数1回まで)

野菜



施設栽培における省エネ対策



**野菜**  
山下 伸一  
下島営農指導センター  
080-1729-1630

原油価格が高止まりしているなか、農家の経営にも影響をきたしています。そこで、我が家でも出来ることをもう一度、見直していただければと思います。

1.ハウスの気密性を高める。

- (1)ビニールの破れや隙間を無くす。
- (2)出入り口の内外にフィルムを張り、冷気の流入を防ぐ。
- (3)谷部、サイドは、妻面から1.5m程度重ね代をとって、風の侵入を防ぐ。

2. 多重被覆を導入する。

- (1)可能な限り多重被覆を導入する。
- (2)カーテンが変質したり、破れたりしている場合は交換又は補修する。
- (3)寡日照、高温、多湿対策として日中に換気や病害虫防除を行う。

3. 夜間は変温管理を行う。

- (1)夜間の設定温度は、4段サーモなどを活用した温度管理を行う。
- (2)品質や収量に影響のない設定温度で、管理を行う。

4. 暖房効率を高める。

- (1)暖房機の熱交換面を清掃する。
- (2)暖房機のノズルの交換、空気量の調整をする。
- (3)温度センサー位置は生育ステージに合わせる等適切な位置に設置する。
- (4)温風ダクトの配置は、穴の間隔、ダクト間隔を調整する等適正に配置する。
- (5)循環扇等の利用のより、温度ムラを少なくし、過剰暖房を防ぐようにする。

5. 栽培管理の工夫を行う。

- (1)整枝、誘引、摘葉等適期管理を行い、採光を図る。
- (2)品目によって異なるが、夕方適温で、ハウスを閉めて保温する。
- (3)ハウス北側の妻面やサイド部を防寒資材で被覆する。
- (4)節油のあまり、適温を下回る管理をしない。

※収量が上がらなくては意味がありません。人体もそうですが、農産物も温度変化には敏感です。農産物を守るのは作物を作る生産者です。



花卉



スリップス (アザミウマ) について



花卉

吉澤 清

下島営農指導センター  
080-1774-5386

今回は花き類で高温乾燥時に多発するスリップス(ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ)について紹介します。

ミカンキイロアザミウマ(主に花・蕾に寄生)

虫は体長1.0~1.7mm。黄色黒褐色。

ミナミキイロアザミウマ(主に葉に寄生)

成虫は体長1.3mm前後、全体が黄色で羽の合わせ目が黒く筋状に見える。

・生理生態

卵~成虫までの期間は10~20日

成虫の寿命は30~40日

成虫の1匹の雌は150~300個を産卵し、1ヶ月後に300倍に増殖します。

蛹の時期が近づくと地表へ移動し、土中で蛹になります。

休眠しないので、施設内では冬でも発生します。

施設では2月下旬から増加し始め、5~6月に最も活発に活動し、初夏~初秋に大量に増加します。

成虫の飛翔能力は低く、自力で5m程度しか移動できません。

・被害の特徴

・新葉、新芽でひっかき傷に似た症状や茎の曲がりや葉の奇形が見られます。芽の中に潜り込んでいるため、発見が難しくなります。

・展開葉に寄生した場合、加害部が白く光ったように見え、周辺に小さく茶~黄色の虫が見られます。

・蕾に侵入した場合、特に色の濃い品種ではカスリ状の症状が現れます。

・防除対策

耕種の防除

・施設内では、作付前に除草を行い、ハウスは閉め切り、次の作付けまで20日以上あけ、成虫を餓死させます。

・本種の発生した施設では土壌消毒を行い、蛹または成虫を死滅させます。

・株や苗で持ち込まれる場合が最も多く、株や苗を購入する場合は本種が寄生しているかどうか確認します。

・黄色、青色の粘着トラップで発生の有無を観察して、発生動向に十分注意する。

・木酢液を噴霧することで、スリップスを忌避する効果があります。

・砂糖を200倍~500倍に希釈し、有機リン剤を溶かして噴霧すると、新芽や蕾から這いだし、舐めて死滅します。

薬剤防除

・薬剤防除については、スリップスの種類や薬害等がありますのでお近くの営農センターまでお問い合わせ下さい。

組合員・利用者の皆様へ



新型コロナウイルス感染症にかかる入院共済金等のお支払いについて

新型コロナウイルス感染症に罹患された皆さまに謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご回復を心よりお祈り申し上げます。

J A 共済連 (全国共済農業協同組合連合会、以下「当会」) では、令和2年4月から実施しております新型コロナウイルス感染症にかかる入院保障の特別取扱い (以下「みなし入院」) のお支払い対象者について、令和4年9月26日 (月) より、以下の通り見直します。

何卒ご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

「みなし入院」のお支払い対象者について

令和4年9月26日 (月) 以降、医師により「新型コロナウイルス感染症」と診断された方のうち、**重症化リスクの高い以下**の方とします。

● 重症化リスクの高い方 ●

65歳以上の方

入院を要する方

妊娠中の方

重症化リスクがあり、新型コロナウイルス治療薬の投与または新型コロナウイルス罹患により新たに酸素投与が必要な方

※令和4年9月25日 (日) 以前に新型コロナウイルス感染症と診断された方につきましては、重症化リスクにかかわらず、従前どりのお取り扱いといたします。

新型コロナウイルス感染症と診断された場合のお支払い範囲

ケース	診断日*	
	9月25日以前	9月26日以降
入院された場合	○ お支払対象	○ お支払対象
宿泊・自宅療養された場合 (特別取扱い)	○ お支払対象	○ お支払対象
	重症化リスクの高い方	○ お支払対象
上記以外の方	○ お支払対象	× お支払対象外

※検査日ではなく、診断日での判断となります。